

(第3期) 第6回松本市子どもにやさしいまちづくり委員会会議録

1 日時

平成30年12月9日(日) 午後2時30分から4時30分まで

2 会場

あがたの森文化会館 2-7会議室

3 出席者

(1) 委員

荒牧重人会長、森本遼副会長、西森尚己委員、豊嶋さおり委員、大月悦子委員、一ノ瀬浩子委員、柳澤厚志委員、吉澤由紀子委員、臼井和夫委員、神津ゆかり委員、山口茂委員

(15名中11名の出席があり、過半数を満たすため、松本市子どもの権利に関する条例施行規則第16条第2項に基づき、会議成立)

(2) まつもと子ども未来委員会

委員17名(小学5年生から中学3年生)

(3) 事務局

こども育成課長、育成担当係長、児童担当係長、育成担当

4 会長あいさつ

「子どもにやさしいまちづくり推進計画」は、子どもの権利条例を具体化するための計画です。子どもにやさしいまちづくりについて、子どもの意見を十分に聞く場がなく、大人だけで考えてきましたが、今回は、子どもの意見を計画に取り入れるために、まつもと子ども未来委員会の皆さんと話し合う場を設けました。未来委員会の皆さんには、委員会をもっと楽しく、面白くするためにも協力いただきたいと思います。

今日の話し合いでは、「良い子」でなくて構いません。子どもにやさしいまちづくり委員会は、子どもたちのどんな意見でも受け止めますので、「未来」のことだけではなく「今」のことも、率直な意見を聞かせてください。未来委員会の皆さんからの意見は、必ず検討して活かせるところは活かします。

「すべての子どもにやさしいまち」のために、子どもの知恵と力をお借りしたいと思います。

5 会議事項

(1) まつもと子ども未来委員会の活動紹介

《未来委員会 資料に基づいて説明》

(要旨)

- ・ まつもと子ども未来委員会は、松本市子どもの権利に関する条例に基づき、子どもにやさしいまちづくりを更に進めるため、学校・地域・年代を超えて、市やまちの課題について学び、解決に向けて話し合っている。
- ・ 現在は、第4期目として小学5年生～高校2年生までの32名が活動している。
- ・ これまでに、学習会やごみ拾い活動、市議会との意見交換会、交流事業をとおり、まちづくりについて学習してきた。

(2) 子どもにやさしいまちづくり推進計画（中間報告）について

《委員（グループリーダー） 中間報告資料に基づいて説明》

(3) グループディスカッション

《A～Dの4グループに分かれてディスカッション（詳細は、グループワーク報告書のとおりのとおり）》

(4) 発表

《ディスカッションでの意見や提案についてグループごと発表》

（Aグループ発表要旨）

○ 子どもの権利の普及と学習への支援

- ・ 子どもの権利のことは、委員会に入って色々知ったが、周りには知らない子も多い。
- ・ 「こころの鈴」の普及には、カードよりも手元に持っていられるものが良い。SNSで相談を受け付けるようにすれば、若い人の目にも留まる。
- ・ 子どもの権利のポスターは見たことがあるが、もっと分かりやすいところにあると良い。
- ・ チラシ等には、文字よりも漫画を入れると読みやすい。

○ 子どもの相談・救済の充実

- ・ 「こころの鈴」のポスターはよく見るので、子どもの権利自体より知られていると思う。カードだと捨てられてしまうので、マグネットや消しゴムを作るか、カードをシールにして連絡袋に貼ってもらえると良い。
- ・ 悩みがあったときに話しやすいのは、身近な学校の友達なので、友達から「こころの鈴」のことを伝えられると良い。相談場所も身近にあると良い。

○ 子どもの意見表明・参加の促進

- ・ 子どもからの意見は、学校の先生がまとめて伝えてくれると良い。
- ・ 未来委員会については、先生が知っていても友達が知らないことが多いので、委員会のポスターに顔写真を入れると、友達に活動を知ってもらえるのではないかな。
- ・ 子どもだけで解決できる問題は少ないので、大人の支援が必要になる。未来委員会のような活動が広がればいい。

○ 子どもの居場所づくりの促進

- ・ 図書館や公民館、勉強できるフリースペース、公園は「居場所」だと感じる。
- ・ 公園は、遊具が少ないので、独占されてしまう。特に、上級生がいると下級生が使い辛い。学年別や遊び方によって、使う場所が分けられると良い。
- ・ 土日でも自由に使える場所がほしい。児童センターは誰でも使える場所だが、利用登録をしている子でいっぱい、他の子が遊ぶ余裕がないので残念。

○ 感想

- ・ 【未来委員】大人の考えと子どもの考えだけでなく、中学生と小学生とでも考えが違うことが分かった。求めるものも違うので、そうしたことも活動に活かしていきたい。
- ・ 【まちづくり委員】子どもたちに、最後に言っておきたいことをきいたとき、「大人は子どもに親身になってくれるけれど、それが鬱陶しく感じるときもある。」「大人は、『宿題しなさい』等、子どもに先回りばかりして言わないでほしい。」という意見があり、その通りだと感じた。

(Bグループ発表要旨)

○ 子どもの権利の普及と学習への支援

- ・ 放送やチラシなどの普及活動がされていることは知っている。
- ・ ただし、放送でもチラシでも文章が長いと印象に残らないので、「子どもの権利」「こころの鈴」など、フレーズだけを載せたチラシを作ってはどうか。チラシなどを一方的に配付されて終わるのではなく、子ども同士で話し合う機会もあれば良い。

○ 子どもの相談・救済の充実

- ・ 相談するなら、知らない人より身近な人の方が良いので、友達の親など身近な人が話を聞いてくれたら良い。
- ・ 相談方法について、電話やメールだけでなく、手紙を書くと、自分の頭の整理もできる。
- ・ そもそも、子ども同士の問題を大人に言うのは、告げ口のようにタブーに思われているので、悩みがあっても誰にも言いたくない。

○ 子どもの意見表明・参加の促進

- ・ 未来委員会で「どうせ提言したって反映されない」と言う委員もいた。提言の内容の中には、子どもからの意見なので、実現できないこともあると思う。実現できないときは、どうしてなのか、理由を説明してもらえると良い。

○ 子どもの居場所づくりの促進

- ・ 児童館や児童センターは、遊ぶ場所や道具があって楽しいが、一人で静かにしたい子は、児童センターに行きたいと思っても馴染めないと思う。特に、小学校の途中の学年で登録すると、1年生の時から通っている子に比べて、場違いな感じがするので、もっと通いやすい環境にしてほしい。
- ・ 図書館は市内に数箇所しかないが、公民館のように家の近くにほしい。
- ・ 公園や体育館等、スポーツできる場所はいろいろあるが、パソコンをしたり、生き物と触れ合ったりできる場所は全然ないので残念。

(Cグループ発表要旨)

○ 全体をとおして

各取組みどれくらい知っているか、取組みについてどう感じているか、意見交換をした結果、学校の先生が条例や未来委員会のことを知らないという課題が挙げられたが、各事業に対し、どのような取組をすべきか、未来委員から次のとおり意見が多く挙げられた。

○ 子どもの権利の普及と学習への支援

- ・ 他県からもイオンモールには来ると思うので、イオンモールの中で人権クイズのスタンブラリーをやれば、小さい子やその保護者が人権について考えてくれると思う。
- ・ こころの鈴ニュースを配付するときに先生が補足してくれると分かりやすい。
- ・ 他県からイオンモールに来る観光客が多いと思うので、イオンモールでアルプちゃんを探すゲームをすれば良いと思う。
- ・ 山雅を活用すれば良い。

○ 子どもの相談・救済の充実

- ・ 親に相談すると、とても心配されるので、逆に相談しづらいので、気軽に話せる兄弟や友達など、歳の近い人の方が相談しやすい。

- ・ 怖い人には相談できないので、優しいような人が相談員だと良い。
- ・ 相談したときに、最初からすぐに相談を始めるのではなく、雑談から始めてくれると良い。
- ・ 学校でいじめが起きてしまったら、その日のうちに先生の間で話し合ってほしい。間を空けてしまうと、先生も忙しくなってしまう、話し合う時間がなくなってしまうと思う。

○ 子どもの意見表明・参加の促進

- ・ 未来委員会に継続して参加しているが、市の問題は県の問題のひとつでもあると思うので、市の関係者だけでなく、県の関係者にも来てほしい。
- ・ 様々なイベントに未来委員会が参加していくと良い。
- ・ 委員同士の話し合いだけでなく、29年度に参加した、「茅野市ぼくらの未来プロジェクト」による「愛してるぜ茅野ミーティング」のように、お菓子を食べながら一般市民とも話し合いをしたい。
- ・ いじめをテーマにしたテレビ番組があるので、こころの鈴のことを放送すると良い。

○ 子どもの居場所づくりの促進

- ・ 怖い人がいないところなら居場所になると思う。現代社会のことを考えて、Wi-Fi 環境が整っていると良い。子どもが笑顔になれるように、ゲーム機やスマホが借りられたり、エアコンが設置されたりしていると良い。
- ・ ざわざわしている所だと居心地が良い。
- ・ 無料のカフェのような静かな所だと良い。
- ・ 子どもの意見をしっかり聞いてくれる優しい人がいる所、小さなことでも相談を受けてくれる所だと良い。

(Dグループ発表要旨)

○ 全体をとおして

「子どもの居場所づくりの促進」に特化して意見交換をした。居場所とはどんな所かを子どもたちに聞いたところ、学校・習い事の場所・家・図書館・公園・児童センター・未来委員会・友達の家などの意見が聞かれたほか、相談できる場所・信頼できる人がいる所が居場所だという意見も聞かれた。

○ 子どもの居場所づくりの促進

- ・ 遊具がたくさんあり、人がたくさんいて、自然がある公園だと良い。
- ・ 児童センターは、様々な行事があり、勉強を教えてもらえる上に、様々な学年の人と遊べるが、逆に喧嘩になりもする。
- ・ 中高生の居場所のことを教えてもらったが、中心市街地に偏っていて残念に思った。
- ・ 子どもは「こうしたら良い」という意見を持っていたとしても、それを発表する場所がないので、そういう場所を増やしてくれると、良い意見が集まると思う。
- ・ 年齢に関わりがなく、話すことが好きではない子でも行ける居場所があると良い。
- ・ 市街地から離れると、休日や放課後に年齢関係なく遊べる場所が少ないので、充実させてほしい。
- ・ 公園ではボール遊びが禁止されている所があることに加え、禁止されていなくても、ネットやフェンスが破れていると思いきり遊べない。遊具が少ない所もあるので、残念。

○ まとめ

子どもたちには、言いたいことがあっても、それを言う場所がないことが分かった。新しいものを作ったり、改善したりしていく上で、子どもの意見を聞く機会が必要だと感じた。

また、学校で支援学級に行っている友達、不登校の子、誰でも集える場所があれば良いという意見、その子のことをもっと知りたいという意見もあり、大切なことだと感じた。

(4) まとめ（会長より）

冒頭お伝えしたように、まつもと子ども未来委員会の皆さんからの意見は、必ず検討して、その結果を何らかのかたちで皆さんに伝えるようにします。大人と子どもでは考え方に違いがあるという意見がありましたが、違いがあるからこそコミュニケーションや議論があると思うので、もっと様々なかたちで、子どもの現状や意見を踏まえ、次期計画づくりを進めたいと思います。